

有田地方におけるトルコギキョウ栽培への取り組み

1. はじめに

有田地方は古くから温州みかんの産地であるが、みかんの価格低迷に伴って昭和50年代から複合経営の一環として花き栽培が導入されている。

当地域でのトルコギキョウ栽培は平成元年から始まり、近年、新作型の普及や需要の増大から関心が高まり、面積拡大が行われつつある。



2. 現況

有田地方のトルコギキョウ栽培は、平坦部から中山間部にかけての広い範囲で導入されている。平成8年度における栽培面積は約130aで栽培農家数は18戸である。

新規参入者が多いため、高品質生産を基本とした適期出荷を目標に基本的な栽培管理の徹底に努めており、特に施肥と水分管理に重点をおいている。また、日照条件の改善を図るため反射シートの使用が検討、導入されている。育苗については個人あるいは共同で冷蔵育苗や高冷地育苗を行っており、均一で良品質な苗づくりを目標に努

力している。

ほとんどが柑橘類との複合経営であるため3～4月出荷の作型が中心であったが、最近では年内+4～5月出荷の超促成2度切り作型への移行や3～4月出荷と超促成2度切り作型を組み合わせることで長期出荷をねらう生産者も増えつつある。柑橘類との複合経営における労力配分や市場への安定供給の面から有田地域に適した作型の検討が求められている。

組織体制については一部個人出荷があるものの農協単位で部会組織があり、園地巡回や市場、先進地研修で情報収集や技術の習得に努めている。

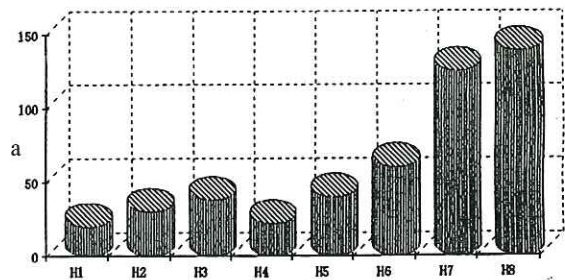


図1 有田地方トルコギキョウ栽培面積推移

3. 今後の方向

- 栽培技術の高位平準化
- 地域特性に適した作型の検討
- 広域的組織体制づくり

以上のことに重点をおき、経営の安定化を図るため、高品質生産を基本とした生産量の拡大と安定供給体制の確立を推進していく。(有田地域農業改良普及センター)